



国際ロータリー第2530地区 2014-15年度

# 福島ロータリークラブ會報

第23号

例会日/2014年12月25日(木) 開会点鐘/12:30  
会場/ホテル[辰巳屋]8F

和の心で  
日々燭を掲げよう

Rotary



本日の  
プログラム

会長・幹事スピーチ「半期を終えるにあたり」

丹治 正博 会長 坪井 大雄 幹事

<http://www.f-rotary.com/>

【事務所】福島市栄町5-1 ホテル辰巳屋 7F 【例会日】木曜日12:30  
【TEL】024-524-1010 【FAX】024-524-1011 【mail】f-rotary@guitar.ocn.ne.jp info@f-rotary.com

## 例会次第

- 開会点鐘 丹治正博 会長
- ロータリーソング「我等の生業」  
ソングリーダー 安藤健次郎 会員
- 「四つのテスト」唱和 門脇 渉 会員
- 会長挨拶 丹治正博 会長
- 食事
- 幹事報告 坪井大雄 幹事
- 各委員会報告
  - プログラム・ニコニコBOX小委員会
  - ニコニコBOX担当 三浦康伸 委員
- ◎本日のプログラム
- 開会点鐘 丹治正博 会長



## 数え年に籠められた 日本人の命への眼差し

今年も残すところあと六日となりました。皆様のご家庭では、大そうじやお正月の準備に余念が無いことと思います。この時期は私たち日本人にとって「心の大そうじ」とは言葉を変えれば、絶え間ない「いのち・魂の甦り」の時であると思います。ところで、私たちはお正月になると必ず「あけましておめでとう」と新年の挨拶を交わしますが、じゃなぜお正月はめでたいのでしょうか。当たり前過ぎて、理由など深く考えたことなどないかもしれません。

## お正月は、なぜ、めでたいのか

二〇一四―一五年度会長 丹治 正博

## 例会プログラムのご案内

- 1月15日(木) 12:30~「辰巳屋」  
久米允彦ガバナー補佐クラブ訪問  
\*「友」紹介 \*誕生祝い  
\* 1月理事会(懇親会あり) 18:30~「辰巳屋」
- 1月22日(木) 12:30~「辰巳屋」  
阿久津肇パストガバナースピーチ  
「福島ロータリークラブと周辺」
- 1月29日(木) 12:30~「辰巳屋」  
新会員スピーチ 福島民友新聞社代表取締役 五阿弥宏安 会員

その訳を申し上げる前に「数え年」のおさらいをしておきたいと思えます。今では生まればかりの赤ちゃんの年を0歳と数え、満一年のお誕生日を迎えて初めて一歳と言いますね。これは西洋の合理的発想からくる数え方で、数直線的な感覚です。欧米のお墓の墓石を見ると、故人の名前の下に生誕年と没年が並んで彫られていることにも伺えます。これに対して我が日本では、生まれた時点で一歳と数えました。赤ちゃんの生命は、母親の胎内に宿ってから十月十日、約一年の時間を生きて後に誕生するわけですから、生まれた時点で一年間の命をカウントしてあげて一歳と数えました。この考え方からは、西洋人の合理的発想とは異なる日本人の命を愛おしむ心が伺えます。そしてお正月を迎えるたびに一歳年を加えるのが数え年の考え方です。「数え年」は戦前まで当たり前の年の数え方で、今でも「七五三」や「厄年」のお祓いなど、日本人の一生の節目の行事には、やはり数え年が生きています。ちなみに、馬の年齢も日本では、平成十二年まで数え年を用いて表記していたそうです。

さて、日本では大晦日と元旦との間には他の三百六十四日とは違う大きな壁があると思いませんか。

仕事は年内にケリをつけたい、大そうじは年内に済ましたいなど、皆さん無意識に年末で一年の区切りをつけて、新たな年を迎えようとされますね。日本人の時間の観念は欧米とは異なり、例えていうならば串にささったおだんごのように時間をとらえます。つまり一年一年が一つのおだんごで、つかず離れずの関係でくっついていて、そして昔の人はお正月を迎えるということは、新たな一年の「いのち」のおだんごを頂くことと考えたのです。誰から？それは神さまから頂くものと考えたのですね。

皆さんはご自分の誕生日を個々にお祝いすると思えますが、もし日本人全員が同じ日、元旦が誕生日だとしたらどうなりますか。これはもう顔合わせする人すべてに「おめでとう」と言う合う理屈になるでしょう。これは数え年の考え方から来ることはもうお分かりのことと思います。一年の始めにあたり、神さまから一年の「いのち」を頂戴する、歳をとらせていただく、だからおめでたい、そしてありがたいから初詣で神さまに感謝をして、頂いた一年の命をいかに有意義に過ごすか誓いを立てられるわけでしょう。誰に強制されるわけでもないのに初詣で押し寄せる。皆さん意識されていないでしょうが、日本人の血の中にそうした考えが脈々と息づいているからにほかならないのですね。お正月は、神さまが私たちに「一年のいのち」と幸福を授けに来て下さる、まさに「このころの大そうじ」であり「いのちの甦り」のおめでたい行事なのです。

## お正月は「いのちの甦り」の行事

皆さんはご自分の誕生日を個々にお祝いすると思えますが、もし日本人全員が同じ日、元旦が誕生日だとしたらどうなりますか。これはもう顔合わせする人すべてに「おめでとう」と言う合う理屈になるでしょう。これは数え年の考え方から来ることはもうお分かりのことと思います。一年の始めにあたり、神さまから一年の「いのち」を頂戴する、歳をとらせていただく、だからおめでたい、そしてありがたいから初詣で神さまに感謝をして、頂いた一年の命をいかに有意義に過ごすか誓いを立てられるわけでしょう。誰に強制されるわけでもないのに初詣で押し寄せる。皆さん意識されていないでしょうが、日本人の血の中にそうした考えが脈々と息づいているからにほかならないのですね。お正月は、神さまが私たちに「一年のいのち」と幸福を授けに来て下さる、まさに「このころの大そうじ」であり「いのちの甦り」のおめでたい行事なのです。

## 会長スピーチ

### 「半期を終えるにあたり」

丹治 正博 会長



本年度に私が掲げたテーマは「和の心で日々燭を掲げよう」であります。RI会長のテーマを受けて、私は「和」の心(日本人の心、和を尊ぶ心)をもって、クラブの中で寂しい思いをしている会員はいないか、家庭で、自分の職場で、そして社会において自らの職業を通じて燭を掲げる(暗いところを照らして、辺りを輝かせる)存在となることを目標にこのテーマを掲げました。そしてこのテーマのもと、次の2つを重点目標と致しました。

①例会は、会員が交流する場、知的刺激を得る場、ロータリーの基礎知識を身につける場として秩序ある例会を開催する。

②品格あるクラブを目指す。

この二つの重点目標を後半も堅持して参ります。

#### SAA(会場監督)

本年度は、例会運営の規律を正すために、SAA本来の任務を明確化しました。旗をもって例会開始の許可を宣することを始め、スピーチ中の私語に注意を促したり、席次の流動化を試みるなど、最近ではSAAの存在感が増して、例会が引き締まってきたと感じております。後半も引き続きこの流れを続けるとともに、バッジ着用をお願い、更には各テーブルの新入会員に対して、まわりの会員に声かけを促すことなどを心掛けて頂きたいと思っております。

#### 幹事・副幹事の任務とロータリーの豆知識

幹事報告の内容について、幹事の個性を加えながら、折々のロータリーの情報や、一年間の計画のもとにロータリアンとして知っておくべき豆知識などを伝えることと致しました。また副幹事の任務については、従来あいまいな位置づけでしたが、幹事を補佐する立場として、また幹事の経験を積んでもらう意味でも、今まで以上に仕事の分担を行っております。

豆知識については、ロータリーの月間に合わせるなど、折々のタイムリーな話題を心掛けてまとめておりますので、一年間でロータリーに関する基礎知識が理解出来るものと考えております。会報にも掲載してありますので、読み返して味わって頂ければ幸いです。

#### クラブの現況と会員増強・出席

クラブの現況ですが、現在会員数、名誉会員2名、正会員85名、うち女性会員2名、最年長は安藤鎌雄会員88歳、最年少は岡田新也会員41歳、平均年齢62.9歳、平均会歴10.7年となっております。会員数は7月1日の期首から5名増となりました。また出席率も目立って改善してきています。充実した例会が出席率を高めると信じて、引き続きこの流れを絶やさぬよう努力して参ります。

#### ロータリー情報 クラブ会報

クラブ会報の体裁(フォーマット)を和風に、縦書き横書きの併用で誌面に変化をもたせて読みやすくを心掛けております。

#### 広報マルチメディア・雑誌

「マスコミ懇談会」は、県内に数あるロータリークラブの中でも、当クラブ独自の行事で、県内を代表する新聞社、テレビ局の報道の責任者の方々と、福島ロータリークラブとが、一年に一度、懇談会を開催しております。懇談会では、私どもの活動や事業の内容をお知らせし、地元メディアの皆様にご理解を深めて頂くと共に、一般市民の皆様にご理解の活動を広報して頂き、よりロータリー活動を広めて行くために開催を致しております。12年目を迎えた今年のマスコミ懇談会は、去る9月25日に開催されました。この行事は、野崎ガバナーが地区目標の一つに掲げられる「ロータリーイメージと認知度の向上」に取り組むにあたり、マスコミ側の認識やロータリーに望むことなどについて意見交換を通じ、共通認識を有する上で大いに資するものと存じております。

また、「ロータリーの友」紹介ですが、特にマスコミ関係の会員による独自の視点と切れ味するどい解説は、人気のコーナーになりつつあります。

#### 親睦ロータリー家族委員会

今年度、菅野委員長のもと13回の委員会開催が予定され、今月までにすでに8回の委員会を消化しております。この間、7月の役員・理事慰労夜間例会、8月の納涼夜間例会、そして12月8日の年忘れ家族夜間例会の企画・運営、そのほか9月の敬老お祝い例会、親善囲碁大会、「TENの会」など親睦事業への協力を行い、充実した活動を展開しております。後半には、3月の創立記念夜間例会、4月のゴルフコンペ、観桜夜間例会、6月の東京交歓会の企画実施、更には年代会への協力、「私の隠れ家」の編集発行などが控えており、更に親睦活動を充実させて参ります。

#### プログラム・ニコニコBOX

当初、プログラム編成にあたり、ゲストスピーチを充実させたいとの考えを持っておりましたが、当クラブは例会内容が過密であることから、現在のところ思うようには実現していません。今後、可能な限り外部のゲストスピーチを組んで参りたいと思っております。また、ニコニコBOXにつきましては、本日の第23回例会までの累計投入金額が1,510,000円となり、例年になく順調に推移致しております。今後もニコニコBOX本来の意味や相応しいメッセージの例などを周知し、社会奉仕のための活動資金醸成に努めて参りたいと思っております。なお、発表順番はロータリー歴の浅い会員を先とし、例会で発言機会の多い会長、幹事は後にすることを心掛けております。

## 職業奉仕委員会

本年度は「四つのテスト」を毎例会時に唱和致しております。若い会員に交代で唱和の先導を行って頂くことで、着実に成果が上がっていると感じております。また、職場訪問例会では10月の職業奉仕月間の9日にヤクルト本社福島工場を訪問致しました。後半は4月11日(土)に競馬場例会を予定しております。

## 社会奉仕委員会

本年度の前半は、特に社会奉仕事業に軸足を置いて活動を進めました。これからのロータリー活動には、中・長期にわたる人道支援事業が求められており、以下の4つの事業を平行して進めました。

- ①「障害ある人々への支援」授産施設との連携を深め、夜間例会時の土産などに製品を積極的に使用する。
- ②2014 - 2015年度地区復興補助金を活用しての「福島大学子どものメンタルヘルス支援事業、車両、寄付金贈呈」
- ③福島いのちの電話への支援(視聴覚機器の贈呈)
- ④パンダハウスへの支援(例会における募金活動)

これらのうち、メンタルヘルス事業と福島いのちの電話への支援については、福島民報、福島民友紙上に掲載されたほか、ロータリーの友12月号にも紹介されました。

## 青少年奉仕

当クラブでは、青少年の組織であるインターアクト・ローターアクトの諸活動に積極的に取り組んでおり、福島学院大学に設置されたローターアクトクラブと、福島東稜高等学校に設置されたインターアクトクラブを支援しています。毎年、メンバーが入れ替わる学校でのクラブ運営の難しさもあり、最近、活動がやや停滞気味でありました。そこで、昨年の紺野年度よりテコ入れを図り、今年度は森岡委員長以下青少年奉仕委員会のご努力もあり、学校側の理解も頂きながら次第に活動が活性化して参りました。先日11月8日に三者合同新世代会議が開催され、「世界に伝えたい日本の心」のテーマのもと意見発表が行われましたが、確かな手応えを得ることが出来ました。今年度の地区目標に、「青少年養成に期待をこめて積極的サポート」を野崎ガバナーが掲げておられますが、当クラブ傘下の両クラブの支援を中心に、このたび設立された福島中央ローターアクトクラブへの支援、更には明年に本県で開催される第27回全国ローターアクト研修会の成功に向け、協力体制をとって参りたいと存じます。

## 後半に向けて

前半は、社会奉仕に軸足を置きましたが、後半は親睦活動に力点を置きながら進めて参る所存です。

### 「年代会」

我がクラブには「年代会」という年代別の懇親の会が定期的に開催されておりましたが、ここしばらく開かれておりませんでした。そこで私の年度で久しぶりに「年代会」を開催致したいと思っております。「年代会」のそ

## ロータリーの豆知識

第29回

### 親睦 (Fellowship)

#### ロータリーにおける親睦とは

親睦と奉仕は、ロータリーの二本の柱といわれています。しかし、ロータリーは敢えて親睦と奉仕の解釈を、世間一般の人たちが考える解釈と異なる次元に置いています。この二つはロータリー独自の概念であり、これを正しく理解しない限り、ロータリー思想の原理に触れることは難しいと言われていています。Fellowshipを「親睦」と訳したことに問題があるのかも知れません。むしろ、「連帯感」とか「協調」と訳す方が理解し易いでしょう。「親睦」とはロータリークラブが、クラブとして存続していく上で欠かすことの出来ない必要条件となる、ロータリアン個人個人の心が結合した状態を表す概念なのです。言い換えれば、「Fellowship」はロータリーの引力とも言えます。

#### “入って学び、出でて奉仕せよ”

ロータリー運動の実体を、見事に表した言葉として、「入って学び、出でて奉仕せよ」“Enter to learn, Go forth to serve”という言葉があります。世の中のあらゆる有用な職業から選ばれた裁量権を持った職業人が、一週一回の例会に集い、例会の場で、職業上の発想の交換を通じて、分かち合いの精神による事業の持続性を学び、友情を深め、自己改善を図り、その結果として奉仕の心が育まれてきます。この例会における一連の活動のことを「親睦」と呼ぶのです。例会で高められた奉仕の心を持って、それぞれの家庭、職場、地域社会に帰り、奉仕活動を実践します。これが理想とされるロータリーライフです。

悩みごとを相談する真の友人こそロータリーの友でなければならず、それを可能にするためには、ロータリーの友情即ち親睦を更に高めなければなりません。もし、事業不振のため退会を余儀なくされる会員がいたとすれば、そのクラブにはロータリーの親睦がなかったことを証明することになるのです。職業上の相談はどんなことでもクラブ内の友人に相談できる。どんなことを相談しても、自分のマイナスになって返ってくることは絶対にない。これが可能なクラブのことを、親睦のあるクラブと言います。その前提となるのが一人一業種制度なのです。

#### 親睦活動 (Fellowship Activities)

ロータリークラブの会員の中にも、親睦と親睦活動を混同する人が多いようです。親睦会やゴルフ会に参加することは親睦活動に参加することであって、親睦とは違った次元のものであることを理解すべきでしょう。親睦活動がクラブ奉仕の充分条件の範囲内で、親睦というロータリー本来の運動を高めるために補助的に活動することは大切なことです。しかし、親睦活動委員の任務を、親睦会の幹事や同好会の世話役に留めることは大きな誤りです。確かに会員が心を打ち解けあう手段の一つとして、親睦会やクラブ活動などのレクリエーションも必要です。しかし、親睦を深める最適の場所は、毎週一回の定例の例会であることを忘れてはなりません。例会において、いかに友情を深めるかを考え実行すること、いかにして真の親睦が保たれるような環境を整備することが最大の任務なのです。

丹治年度では、新入会員のうち特に転勤族の会員には親睦委員会に所属して頂きます。これは、新人だから下働きにしておこうということではなく、親睦委員として毎例会、会員相互の親睦を深める活動に従事することによって、一日でも早く、古い会員と融和を図ることを期待しているからです。友情溢れる例会を通じて、ロータリアンがお互いに切磋琢磨し、自己改善に努めることで、ロータリーの説く親睦が一層深まり、奉仕の心が高まっていきます。

(文責/丹治正博)

もその始まりですが1974-75年度(昭和49-50年度)大原曾一郎がバナー年度にクラブ会長を務められた渡辺正之先生が大正一桁会を始めたのが最初で、これに呼応して拡大型の昭和二桁会が誕生、次いで20年代会、30年代会が誕生したと伺っております。各年代の連帯を深めることにより、福島ロータリークラブの品格ある伝統を正統に次の世代に引き継ぐ役割を果たしてきました。現在の会員の年齢構成を見ますと、大正生まれ1名、昭和一桁7名、昭和二桁17名、20年代17名、30年代29名、40年代以降14名、最大勢力は30年代です。これから各年代の幹事役の方々のご意見を伺いながら、開催に向けて準備を進めて参りますので、開催の折には多くの会員のご参加をお願い申し上げたいと思います。

### 「私の隠れ家」

当クラブでは、会員の約四分の一の20名ほどが転勤族の方々です。転勤族の方々に福島に赴任される限られた時間に福島を理解してエンジョイして頂くとの趣旨で、転勤族の転をとって名付けられた「TENの会」が数年前に誕生致しました。定期的に開かれる会では、地元会員と毎回懇親を重ねておりますが、この「TENの会」で皆さんからよく出る話題は、限られた情報の中でいつも大体決まったお店にしかかないので、いいお店があれば是非教えて欲しいというご希望でした。そこで私の年度では、こうしたご希望を踏まえて、地元会員の馴染みのお店を転勤族会員にご紹介して福島のナイトライフを更に充実したものにしようとの趣旨で「私の隠れ家」と題した小冊子を作成することになりました。編集を親睦ロータリー家族小委員会に担当して頂き、現在、会員皆さんから寄せられた約100件ほどのレアな情報をもとに、鋭意編集中です。私の年度のなるべく早い時期に皆さんにお届けしたいと思っておりますので、お楽しみにお待ちしております。

### 「東京交歓会」

「東京交歓会」は当クラブ独自の事業で毎年、東京在住のOB会員と交流を重ねて参りました。我がクラブは土地柄、中央の金融機関や電力、通信会社の支店長が多く入会されることから、転勤で東京に戻られた元会員も多く、そうした方々と福島でともに活動したの絆を大切にするために始められ、今年で37年の歴史を刻んで参りました。私の年度も明年6月5日(金)に開催の予定で進めておりますが、か

ねて東京在住OBから土曜日開催だと休日にあたり出にくいため、金曜日開催を望む声が多く聞かれたことから、私の年度では試みに金曜日の夜に開催する事に致しました。私の年度は、「和」を掲げておりますことから、それに相応しい企画を現在計画中ですので、どうぞご期待下さい。

### 幹事報告

#### 例会変更のお知らせ

●次回例会開催は、1月5日(月)12:30~「エルティ」にて開催されます市内クラブ新年合同例会になります。

#### その他のお知らせ

- ロータリーレート変更のお知らせ…1月より1ドル118円となります(12月は112円)
- 分区会長・幹事会報告



坪井 大雄 幹事

半期間、ご指導ご協力ありがとうございました。来年も引き続き宜しくお願い致します。

### 私のひとこと

岩田 尚志 会員



今年の夏、八十二歳の父から何となしに言われました。「尚志が福島に居る間に、霊山を一緒に歩きたいな。」宮城県亘理町在住の父母は、紅葉の季節になると霊山を歩いていました。東日本大震災以降は足が遠のいていました。近年、見るからに弱々しくなってきた父への最後に近い親孝行かと思いい、紅葉を待つ、十一月一日、父母と三人で霊山へと向かいました。当日は雨模様で登山道は滑り易かったため、足があまり高く上がらない父をサポートし、慎重に歩を進めました。しかし、これ以上は危険だろうと判断した時点で、引き返すことにしました。往復で一時間半位でしたが、後で地図を見ると片道一キロも進んでいません。それでも父は「久しぶりに楽しかった。」と言っていました。思えば十九歳で親元を離れて以降、最も父母の近くに暮らす今、これまでろくに帰省もせずきた罪滅ぼしも兼ね、顔を見せるくらい親孝行はすべきだと反省しつつ、かつては強かった父の弱々しい姿を目の当たりにするにつけ、いろいろな想いが交錯し、感傷に浸ってしまうのです。

### 今

皆さんの欄に社員割引券を入れてさせて頂きました。取扱は三千元引きですが浮いたお金でお昼ご飯や、ニコニコBOX、米山・財団等に投入して頂ければと思います。

●松浦 敬裕 会員  
皆さんの欄に社員割引券を入れてさせて頂きました。取扱は三千元引きですが浮いたお金でお昼ご飯や、ニコニコBOX、米山・財団等に投入して頂ければと思います。

#### ●田苗 博 会員

一年間お世話になりました。来年も良き年でありますように！また、今日は雪害にならない程度のホワイトクリスマスを期待しています。

#### ●志村 光昭 会員

渡部 世一 会員  
藤井 高志 会員

一年間大変お世話になりました。良い年をお迎え下さい。

#### ●渡辺 健寿 会員

後藤 忠久 会員  
幡 研一 会員

丹治会長さん、坪井幹事さんの半年間のご尽力に敬意を表します。あと半年をよろしくお願いします。

#### ●丹治 正博 会員

半年最後の例会を迎えました。半期を振り返りスピーチをさせて頂きます。

#### ●坪井 大雄 幹事

会員の皆様のご協力に感謝申し上げます。新年「後半戦」も宜しくお願い致します。

○他に／菅野晴隆／有田吉弘／高橋聡／海野卓哉／岩田尚志／浦部博／渡邊広重／白岩康夫／森洋一／牧野吉晃／田沼紀美子／古俣猛／森岡幸江／増子勉／安藤健次郎／加藤義朋／門脇涉／三浦康伸

### ニコニコBOX報告

(報告) 右近 八郎 委員長

本日のニコニコBOX投入額 28件 ¥57,000 累計 ¥1,510,000

パンダハウス募金ご報告 (森川英治社会奉仕委員長)

12月25日 8,684円

累計 174,842円